

報告会
軍事化する国際協力をNO！
 ～戦争リスクを高めるフィリピンとの「準同盟」

2024年9月18日
 衆議院第一議員会館 国際会議室

<主催>
 NGO非戦ネット

1

タイムテーブル

開会 15:00
 司会：畠山澄子 NGO非戦ネット運営委員（ピースポート共同代表）

- ◆ **主旨/軍事化する国際協力、「非軍事原則」から逸脱するODAとOSA**
 今井高樹 NGO非戦ネット運営委員（日本国際ボランティアセンター代表理事）
- ◆ **<講演>日本とフィリピン、軍事協力強化の現実と背景**
 布施祐仁氏（ジャーナリスト）
- ◆ **市民社会からのメッセージ**
 フィリピンから（録画） Lila Pilipina事務局長 Sharon Silva氏
 日本から 認定NPO法人アクセス－共生社会をめざす地球市民の会
 常務理事 森脇祐一氏
- ◆ **国会議員からの発言**
- ◆ **参加者からの発言**

終了 17:00

2

NGO非戦ネット

海外の現実を知っている
 NGOだからこそ
 非戦の声をあげたい



2002年 イラク戦争に反対
 2015年 安保法制へのアクション
 2023年 安保3文書
 「戦争できる国づくり」に対するアクション

3

日本政府も認めてきた「非軍事的国際協力」の意義

（2015年開発協力大綱より）

ア 非軍事的協力による平和と繁栄への貢献

非軍事的協力によって、世界の平和と繁栄に貢献してきた我が国の開発協力は、戦後一貫して**平和国家としての道**を歩んできた我が国に最も**ふさわしい国際貢献**の一つであり、国際社会の平和と繁栄を誠実に希求する我が国の**在り方を体現するものとして国際社会の高い評価**を得てきた。我が国は今後もこの方針を堅持し、開発協力の軍事的用途及び国際紛争助長への使用を回避するとの原則を遵守しつつ、国際社会の平和と安定及び繁栄の確保に積極的に貢献する。

平和憲法を国際協力を具体化したもの

4

ODA四原則（1992年初代「ODA大綱」以来の原則）

- ① 環境と開発の両立
- ② 軍事的用途及び国際紛争助長への使用の回避
- ③ 軍事支出や大量破壊兵器・ミサイルの開発・製造の動向への注意
- ④ 民主化の促進、市場志向型経済導入の努力並びに基本的人権及び自由の保障状況



2015年の改定で「非軍事原則」が緩和
「防災」や「民生」目的で、相手国の軍・軍関係者への支援が解禁
巡視船、沿岸警備システム、防災機材など供与

5

政府安全保障能力強化支援 (OSA: Official Security Assistance) 他国軍への武器無償援助

- ・2022年12月の「安保三文書」に明記
「ODAとは別」に
「同志国の安全保障上の能力・抑止力の向上を目的」として
「装備品・物資の提供やインフラの整備等」を無償で行う
「軍等が裨益者となる新たな協力の枠組み」
→ 日本の対外政策（国際協力の非軍事原則）の一大転換
- ・2023年4月、「実施方針」を国家安全保障会議で決定
実施を担当するのは外務省（総合外交政策局）

6

OSA対象国と予算

- 2023年度 予算20億円
 - フィリピン 沿岸監視レーダーシステム供与
 - マレーシア 警戒監視用機材供与
 - フィジー 警備艇供与
 - バングラデシュ 警備艇供与
 - 2024年度 予算50億円
フィリピン、インドネシア、ベトナム、モンゴル、ジブチ
- 供与する資機材は「防衛装備移転三原則」の枠内
→ 殺傷武器の可能性もあり

7

OSAに対して、NGO非戦ネットの取り組み

2023年6月 声明文
国際協力の「非軍事原則」を否定する軍事援助「政府安全保障能力強化支援（OSA）」に反対します

- (反対理由)
- (1) 「非軍事原則」を放棄し、平和国家としての信頼が失われる
 - (2) 覇権争いに加担し、国際的な緊張をエスカレートさせる
 - (3) 日本の防衛産業を武器購入により支援
 - (4) 国会議論もなく、今後も監視の目が届かない

8

OSAに対して、NGO非戦ネットの取り組み

- ・2023年6月 院内集会+外務省意見交換会
 - 「他国軍への武器無償援助OSAを考える」
 - 現実の懸念は、国内での弾圧や紛争での使用
 - 対象国フィリピン：人権抑圧が国連でも問題に
 - 鉱山開発に反対する少数民族などを「テロリスト」として弾圧
 - 「反テロ」キャンペーンに軍用ヘリコプター等も動員
- ・2023年11月 院内集会
 - 「他国軍への武器援助OSAは どんな国に供与されるのか？」
 - インドネシア、バングラデシュの状況、フィジーからのメッセージ
- ・2024年9月 院内報告会
 - フィリピンにフォーカス

フィリピンと日本の防衛協力について

●フィリピンとの防衛・治安対策協力をフルメニューで強化

- ・自衛隊の中古機材の無償供与（海自練習機）
- ・ODAでの軍・治安当局支援
 - 防災機材、対テロ資機材
 - 巡視船（沿岸警備隊に12隻+新規に大型船5隻）
- ・自衛隊による能力構築支援（人道支援・災害救援分野）
- ・武器の民間輸出（唯一の完成品輸出、三菱電機製レーダー）
- ・OSAでの沿岸警備レーダー供与（OSA初案件）
- ・部隊間協力円滑化協定（RAA）締結



ODAの安全保障化 フィリピンの事例

●南シナ海での中国・フィリピンの領有権争いの最前線に日本のODAで支援した巡視船

【アユンギン礁】
 フィリピンが老朽軍艦を座礁させ実効支配の拠点に
 補給船をフィリピン沿岸警備隊の巡視船（日本ODA）が護衛
 → 中国海警局（+民兵船）が衝突、放水など

【サビナ礁】
 フィリピンが大型巡視船（日本ODA）を4月から停泊させ中国をけん制
 8月に中国海警局の船が衝突
 9月には補給ができず撤収



ODAの安全保障化 フィリピンの事例

こうした巡視船の運用は、「非軍事原則」に抵触しないのか？

外務省：ODAは社会経済開発が目的
 巡視船は海上法執行が目的：海難救助、海賊対策、違法漁業対策等
 3月28日のODA政策協議会（NGOと外務省との政策協議）での外務省説明
 「目的に沿って使われていると承知している」
 「特定の国への対象を念頭に置いたものではない」
 モニタリングをしているが、相手国との関係があり明らかにできない。



97M級巡視船「テレスマガ(ASPA)」
 フィリピン沿岸警備隊報道官のXより



衝突する中国海警局の船
 フィリピン沿岸警備隊提供

ODAの安全保障化・フィリピンの事例

ODAでフィリピンに支援した巡視船が
アメリカとの合同軍事演習に参加

米比演習に日本供与巡視船 南シナ海で軍艦4隻と

4/22(月) 18:20 配信 15



【マニラ共同】フィリピン軍はマニラのアギナルド基地で22日、米軍との定期合同演習「バリカタン」の開始式典を開いた。過去最大級の約1万7千人を動員。南シナ海で中国が威圧を強める中、日本が供与したフィリピン沿岸警備隊の巡視船2隻が南シナ海で米仏比の軍艦4隻との海上演習に初めて参加する。中国を刺激するのは必至だ。

13

7月9日のまにら新聞から

日本大使館前で R A A 締結に抗議 元慰安婦の遺族や支援者ら

【 828字 | 2024.7.9 | 社会 (society) 】

[15](#)
[16](#)

R A A に署名された8日、日本大使館前で比人元従軍慰安婦支援団体リラ・ピリピナに所属する遺族や支援者ら約30人が抗議集会



フィリピンと日本両政府の間で訪問部隊の法的地位を定める部隊間協力円滑化協定（R A A）が署名された8日、首都圏バサイ市の日本大使館前で、80年以上前の日...

日本大使館前で行われた抗議集会でスピーチする比人元慰安婦支援団体リラ・ピリピナのシャロン・シルバ事務局長（左から4人目）→ 8日午前10時すぎ、ジャスバール・タン撮影

14

今後もウォッチを続けます

- 2024年度OSA どんな国に何が供与されるのか？
フィリピン、インドネシア、ベトナム、モンゴル、ジブチ
- 2025年度OSA予算は？ 供与対象国は？
- フィリピン・日本の部隊間協力円滑化協定（RAA）
2025年の通常国会で批准？

15